第10講　実践練習(2)

一　文章を読んで、次の問いに答えよ。ただし、出題の都合上、返り点・送り仮名を省略した部分がある。

漢董永、*千乘人。少*偏孤、与父居。肆力田畝、*鹿車載自随。父亡、無以葬、乃自売為奴、以供喪事。主人知其賢、与銭一万、遣之。永行三年喪畢、(1)欲還主人、供其奴職。道逢一婦人。曰、「願為子妻。」遂与之倶。主人謂永曰、「以銭与君矣。」永曰、「蒙君之恵、父喪*収蔵。永雖小人、必(2)欲服勤致力、以報厚徳。」主曰、「婦人何能。」永曰、「能織。」主曰、「必爾者、但(3)令君婦為我織縑百*疋。」於是永妻為主人家織、十日而畢。女出門、謂永曰、「我、天之織女也。縁君(4)至孝、天帝令我助君償債耳。」語畢、淩空而去、不知所在。

（『捜神記』による）

＊千乗—地名。
＊偏孤—片親のみ（この場合は母親がいないこと）。
＊鹿車—小さい車。
＊収蔵—ここでは、埋葬が完了するの意。
＊疋—織物を数える単位。

問一　傍線部（1）「欲還主人、供其奴職」を、すべて平仮名を用いて読み下しなさい。

問二　傍線部（2）は「勤めに服し力を致し、以て厚徳に報いんと欲すと」と読みます。これに従って返り点をつけなさい。

欲服勤致力、以報厚徳。

問三　傍線部（3）「令君婦為我織縑百疋」を現代語訳しなさい。

問四　傍線部（4）「至孝」の具体的内容を、本文に即して説明しなさい。

二　文章を読んで、次の問いに答えよ。ただし、問いの都合で返り点・送りがなを省いた部分がある。

衛ノ霊公之時、蘧(きよ)伯(はく)玉(ぎよく)賢ナルモ而不レ用ヒラレ、迷(び)子(し)瑕(か)不肖ナルモ而任ズレ事ニ。史(し)鰌(しう)(a)患之、(1)数言フモ二蘧伯玉ノ賢ヲ一而(b)不レ聴カ。病ミテ(c)且死、(2)謂二其ノ子ニ一曰ク、我即(も)シ死セバ、治メヨ二喪ヲ於北堂ニ一。吾生キテ(x)不能進蘧伯玉而退迷子瑕。是不ルレ能ハレ正スレ君ヲ者ニシテ、死スルモ不レ当ベカラレ成スレ礼ヲ。而置キテ二屍(しかばね)ヲ於北堂ニ一、於レ我ニ足レリ矣。霊公往キテ弔(とむら)ヒ、問フ二其(y)ノ故ヲ一。其ノ子以テ二父(z)ノ言ヲ一(d)聞ス。霊公造然トシテ失ヒテレ容ヲ曰ク、吾失ヘリ矣。(e)立召シテ二蘧伯玉ヲ一而貴ビレ之ヲ、召シテ二迷子瑕ヲ一而退ケ、徙(うつ)シ二喪ヲ於堂ニ一、成シテレ礼ヲ而後ニ去ル。衛国以テ治マルハ、史鰌之力也。(3)夫生キテハ進メレ賢ヲ而退ケ二不肖ヲ一、死シテ且未ダレ止マ、又以テレ［Ⅰ］ヲ諫(いさ)ム、可シレ謂二忠不トレ衰ヘ矣。

（『大戴礼記』）

（注）
○衛霊公…人名。
○蘧伯玉…人名。
○迷子瑕…人名。
○不肖…能力が劣る。
○史鰌…人名。
○治喪於北堂…北堂で葬儀を行う異例の方法で、死者に罪があることを示す。
○成礼…礼にかなった立派な葬儀を行う。
○造然失容…驚いて顔色を変える。
○諫…忠告する。

問一　波線部(1)〜(3)の送りがなを含めた読み方として、最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選べ。

(1)　数
ア　ますます　イ　しばしば　ウ　いよいよ
エ　たまたま　オ　こもごも

(2)　謂
ア　こたへて　イ　いひて　ウ　およびて
エ　おいて　オ　もとめて

(3)　夫
ア　あに　イ　けだし　ウ　まことに
エ　ただ　オ　それ

問二　傍線部(a)・(b)・(d)・(e)の意味として、最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選べ。

(a)　患
ア　思い切って　イ　よく考えて　ウ　憂慮して
エ　災害に遭って　オ　病気になって

(b)　不聴
ア　許可してもらえなかった　イ　よく聞き取れなかった　ウ　命令しなかった
エ　深くは知らなかった　オ　用意しなかった

(d)　聞
ア　評判が高かった　イ　申し上げた　ウ　聞きつけて来た
エ　望みを述べた　オ　立ち去っていった

(e) 立

ア すぐさま　イ 即位して　ウ しっかりして
エ 起立させて　オ 叱りつけて

問三 傍線部(c)の A 読み方と B 解釈として、最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選べ。

A 読み方

ア まさにしせんとし
イ まさにしすべくして
ウ よろしくしすべくして
エ すべからくしすべくして
オ なんぞしせんとし

B 解釈

ア 少しの間、死んだようになって
イ 死んだ方がましだと思って
ウ 今や死にそうになって
エ 必ず殺されると思って
オ それでも生きたいと望んで

問四　二重傍線部(x)につける　A　返り点と　B　解釈として、最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選べ。

A　返り点

ア　不㆑能㆑進㆓蘧伯玉㆒而退㆓迷子瑕㆒
イ　不㆑能㆑進㆔蘧伯玉而退㆓迷子瑕㆒
ウ　不㆑能㆑進蘧伯玉而退㆓迷子瑕㆒
エ　不㆑能㆘進㆓蘧伯玉㆒而退㆗迷子瑕㆖
オ　不㆑能㆘進㆓蘧伯玉而退㆒迷子瑕㆖

B　解釈

ア　蘧伯玉を高位に進められなかったし、迷子瑕を退けることもできなかった。
イ　蘧伯玉を推薦することはできたが、迷子瑕は退任させられなかった。
ウ　蘧伯玉を前進させることはできなかったが、迷子瑕を追放できた。
エ　蘧伯玉を有能な人材とは思わなかったし、迷子瑕も辞めさせるほどではなかった。
オ　蘧伯玉を進ませてはみたが、迷子瑕を帰らせることはできなかった。

問五　空欄Ⅰに入る語として、最もふさわしいものを次の中から選べ。

ア　病　　イ　子　　ウ　屍　　エ　国　　オ　君

問六　本文の内容と合致するものを、次の中から二つ選べ。

ア　霊公は、史鰌が自分の死までも利用して、君主である自分を戒めようとした行動によって、人事の非を覚った。
イ　蘧伯玉は、霊公に対して何度も進言し、息子までも使って訴えたが、結局二人とも追放された。
ウ　史鰌は、君主を正せなかった者は、まともな葬儀を行う資格はないと考え、自分の葬儀を異例な体裁で行わせた。
エ　蘧伯玉の息子は、父が無念の死を遂げたことを、葬式を行わないことで広く衛国の民衆に知らせようとした。
オ　迷子瑕は、出世を競っていた史鰌が亡くなって、その恨みを晴らすために葬儀を行えないよう、霊公に進言した。
カ　蘧伯玉と迷子瑕は、史鰌の思い切った奇策によって、そろって衛国を支える地位に就くことができた。
キ　史鰌の突然の死によって、その息子がいかに親不孝であったかが、霊公の目の前で暴かれることになった。

問七　二重傍線部(y)で史鰌が死体を北堂に置かせた理由として、最もふさわしいものを次の中から選べ。

ア　賢而不用　　イ　不肖而任事　　ウ　病且死　　エ　不能正君　　オ　霊公往弔

問八　二重傍線部(z)「父言」の終わりはどこか。最もふさわしいものを次の中から選べ。

ア　治喪於北堂　　イ　退迷子瑕　　ウ　不当成礼　　エ　於我足矣　　オ　問其故

三 次の文章は『後漢書』「陳寔（ちんしょく）伝」の一節である。本文と語釈をよく読んで、以下の各問に答えよ。ただし、設問の都合上、返り点や送り仮名を省いた部分がある。

時歳荒民倹（まづし）。有盗夜入其室、止於梁（はり）上。寔陰（ひそかニ）見乃起、自整払呼命（まねキ）子孫、正色訓之曰、「夫人不可不自勉。不善之人、未必本悪。習以性成、①遂至於此。梁上君子者是矣。」盗大驚自投於地、稽顙（けいそう）帰罪。寔徐譬（さとシテ）之曰、「視君状貌不似悪人、宜深剋（かチ）己反善。然此当由貧困。」②令遺（おくラ）絹二匹。自是一県無（　③　）盗窃。

【語釈】
○（陳）寔＝後漢の人。その高潔な行いは人民の模範となった。
○整払＝身なりを整える。
○子孫＝子と孫。
○性成＝（その人の）性質になる。
○稽顙＝ぬかずく。
○帰罪＝自分の罪を認める。
○匹＝反物を数える単位。

問一 傍線部①「遂至於此」はどのようなことを意味するか。指示代名詞の指す内容が分かるように説明しなさい。

問二　傍線部②「令(ム)レ遺(おくラ)二絹二匹(ヲ)一」ということがなされたのは何故か、理由を説明しなさい。

問三　（　③　）に補うのに適当な語を次の中から選べ。

a　復　　b　不　　c　故　　d　勉　　e　常

問四　前の話から「梁上の君子」という成語が生まれたが、この成語の意味を表わす言葉を文中から選んで書け。

〈Memo〉

第10講　確認問題

①「令子犯罪、なほ妄に在り」の傍線部の読み方として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　子に罪を犯さしめる
イ　子に罪を犯さしめんとす
ウ　子をして罪を犯さしむる
エ　子に令して罪を犯さんとす

②「夫以㆓無知之禽獣㆒、猶且変㆑勇為㆑怯、況人之霊」の趣旨として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　禽獣は無知なものだが、霊長類である人間ならば、なおさら勇敢さが変じて卑怯になるなどということはないと夫は言ったのである。
イ　そもそも、知恵のない禽獣でさえ、勇猛だったものが臆病になることがあるのだから、ましてや知恵をもつ人間ならなおさらである。
ウ　夫と知恵のない禽獣とを比べるということは、勇敢と卑怯とを比べるようなもので、霊妙な人間というものがわかっていないのである。
エ　あの無知の禽獣ですら、しばらくは臆病から勇猛へと性格が変わったのだから、人の霊魂も少しの間なら変化することができるのである。
オ　それゆえ、士人は無知の禽獣の性格が勇猛でなくなっても大切にしたのだから、優れた人間ならなおさら大切にするであろう。

③「吾将迎之」の書き下し文と解釈の組合せとして、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　吾、之を将迎せんと
　　私が彼を送迎するつもりだ、と。

イ　吾、将(ひき)ゐて之を迎へんと
　　私が彼を連れて出迎えよう、と。

ウ　吾、将に之を迎へんとすと
　　私が彼を迎えるつもりだ、と。

④「自レ外視レバレ之ヲ、六箇悉ク見ユ。」の傍線部と同じ用法のものはどれか。次の中から最も適当なものを選べ（設問の関係で「自」には、返り点・送り仮名を付していない）。

ア　吾自衛帰ルレ魯ニ。

イ　非トシレ人ヲ自是トス。

ウ　君自行ヘレ之ヲ。

第10講　解答

一

問一　しゅじんにかえ〔へ〕すに、そのどしょくをきょうせんとほっす

問二　欲㆔服㆑勤致㆑力、以報㆓厚徳㆒。

問三　お前の妻に私の為に絹の織物を百疋織らせよ

問四　父親が生きているときには大切にして、父親が亡くなれば自分を売って奴隷となり、そのお金で葬儀をして、主人からお金をもらうと三年間喪に服したこと。

二

問一　(1) イ　(2) イ　(3) オ　**問二**　(a) ウ　(b) ア　(d) イ　(e) ア

問三　A ア　B ウ　**問四**　A エ　B ア

問五　ウ　**問六**　ア・ウ　**問七**　エ　**問八**　エ

三

問一　環境によって結果として悪人となってしまうこと。

問二　本来は悪人ではないのに、貧困の為に盗人にならざるをえなかった盗人に善に戻ってほしかったから。

問三　a

問四　盗

〔現代語訳〕

一

漢の董永は、千乗の人である。若くして（母親がいなくなり）片親のみとなり、父親といた。力を畑仕事に尽くして、（父親を）小さい車に乗せて自分はその後についてしたがった。父親が亡くなると、葬る（お金が）無かったので、そこで自分を売って奴隷となり、それで得たお金で葬儀を行った。主人は董永の賢さを知り、銭一万を与えて、送り出した。董永は三年間の喪に服しそれが終わると、主人にお金を返すのに、奴隷の仕事で返そうと思っていた。道で一人の女性に逢った。（その女性が）言うことには、「どうかあなたの妻にならせてください」と。そこでその結果（董永は）この女性と一緒になった。主人が董永に言ったことには、「お金はお前にあげたのだ」と。董永は「ご主人様の恩恵をいただき、父の埋葬も完了しました。私はつまらない人間ですが、必ず仕事に力を尽くし、厚い御恩に報いたいです」と言った。主人が言うことには、「（お前の）妻は何ができるのか」と。董永は「織物ができる」と言った。主人が言うことには、「必ずそれならば、ただお前の妻に私の為に絹の織物を百疋織らせよ」と。そこで董永の妻は主人の家の為に織物をし、十日で終わった。女が門を出て、董永に言うことには、「私は天の織女である。あなたがたいそう親孝行なので、天帝は私にあなたの負債を償うのを助けさせただけなのです」と。語り終わると、空に昇って、どこにいるのかわからなくなってしまった。

二

衛の霊公の時、蘧伯玉が優れていたのに登用されず、迷子瑕は劣っているのに仕事についていた。史鰌はこれを憂慮して、しばしば蘧伯玉が優れていることを言ったが許可してもらえなかった。（史鰌が）病気になり今や死にそうになって、自分の子供に言うことには、「私がもし死んだならば、（死者に罪があることを示す）北堂で葬儀を行え。私は生きている時に蘧伯玉を（高位に）進められなかったし迷子瑕を退けることができなかった。これは君主を正すことができなかったことで、死んでも当然礼にかなった立派な葬儀をするべきではない。私の屍を北堂に置いたならば、私は満足だ」と。（史鰌が亡くなると）霊公は行って弔い、（北堂に屍を置いている）その理由を質問した。その子は父親の言葉を（霊公に）申し上げた。霊公は驚いて顔色を変えて言うことには、「私は過失をおかした」と。すぐさま蘧伯玉を召して彼を貴び、迷子瑕を召して退けて、（史鰌の）葬儀を行う場所を堂に移して、礼にかなった立派な葬儀を行いその後に去った。衛の国が治まっていた

のは、史鰌の力である。そもそも生きている時に賢者を進めて劣っている者を退け、死んでもまだ止めないで、またも屍で君主を諫める（ことは）、忠心衰えずと言うことができる。

三

時に凶作の年で人民が貧しかった。盗人が夜にその家〔＝陳寔の家〕に入って、梁の上にとどまっていた。陳寔はひそかに（盗人）を見てそこで起き上がって、自分で身なりを整えて子と孫を呼んで招いて、真面目な顔つきをして子と孫に教えて言うことには、「そもそも人間は自分で努力しないわけにはいかない。不善の人も、必ずしももとから悪人ではない。（悪い）習慣によって（その「悪」がその人の）性質になってしまい、その結果この状態〔＝悪〕に至るのである。梁の上にいる君子がこれである。」と。盗人はたいへん驚き自分から地上に降りて、ぬかずいて自分の罪を認めた。陳寔はゆっくり彼を諭して言うことには、「君の容姿容貌を見ると悪人には見えない、自分自身によくうち勝ち善に戻る方が良い。だがこれはきっと貧困によるものにちがいない」と。（家来に命じて）絹二匹を贈らせた。これ以来その県にふたたび盗みを働く者はいなくなった。

第10講　確認問題　解答

〔解説〕

① 「**令**」は**使役**の助動詞「**しム**」。下を見て、まず動詞を探すと「犯」が動詞（選択肢からも「犯す」と動詞確定）。「令」と「犯」の間にある名詞「子」が使役の対象で「**ヲシテ**」の送り仮名をふる。よって、正解はウ。

② 「夫」は「そもそも」の意味。よって、正解はイ。さらに、「～猶且～況」から「抑揚」の句法もわかる。返り点通りの「抑揚」で解釈できているのもイのみ。

③ 「**将**」は**再読文字**で「**将に～ントす**」と読み、「今にも～しそう・だろう」の意味。よって、正解はウ。「将」には再読文字以外の読み「はタ」や「もつテ」もあるが、問題になっていれば、まずは再読文字から考えよう。

④ 設問文の「自」は返り点がついており、「**～より**」と読んで「**起点**」（～から）の意味。選択肢は返り点が省略されているので、訳して確認すると、選択肢アが「私は衛から魯に帰る」と起点で訳せるので、これが正解。イは「他人を間違いとして自分が正しいと考える」ということなので「みずから」の意味。ウも同様に「あなたは自分でこれを行え。」なのでこちらも「みずから」の意味。

〔解答〕

① ウ　② イ　③ ウ　④ ア